

生きている
痕跡の一つとして

小久江
峻

OGUE Shun

はじめに

このZINEは、アートコミュニケーション・ユニット「チューズデー (tuesday)」^{*}が発行するアーティストZINEの記念すべき第一巻として制作されました。

その狙いは、アーティストの半生を、本人の言葉をできるだけそのまま採録することで辿ろうというものです。それゆえ、残念ながら作品に関する直接的な話はほとんど登場しません。

作家自身の、言いよどみ、逡巡、口調などをできるだけこぼすことなく再現すること、作家の人間性のようなものが、読者の中で浮かび上がればいいなと願っています。今回、第一巻目にご登場いただいたのは、東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業され、作家として活躍されている小久江峻おぐえしゅんさんです。

私たちは、小久江さんを学生時代から追いかけてきました。藝祭や卒展で拝見し、タ
イミングが合えばお話を聞き、ギャラリーでは鑑賞会などもさせていただきました。

医療や福祉の領域とも関心を交叉させる小久江さんが、どのような道（内的なもので
あれ、外的なものであれ）を辿り、それがどのように今の小久江さんの中に表れてい
るのか。

私たちの執拗な、そして細部にわたる問いに、小久江さんは忍耐強く答えてくれまし
た。深く感謝します。

このインタビューは、コロナ禍で緊急事態宣言が延長された中、二〇二二年二月二〇日、朝九時半すぎ
から半日近く、JR王子駅周辺の喫茶店、公園、カフェで行われたものです。

編集は極力行わないように心がけましたが、一部、必要に応じて、内容が変わらない範囲で表現の調整
を行っています。

■インタビュー／小久江峻さん

千葉県出身 一九九三年生まれ

二〇一八年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

二〇二〇年 東京藝術大学履修証明プログラム「Diversity on the Arts Project」修了

■インタビュー／チューズデー

■企画・編集・デザイン・写真（カバー、本文中ともに）／チューズデー

ただし、「*ready*」のロゴなき写真は、小久江さんからの提供によるものです。

*「チューズデー（*ready*）」は、東京都美術館×東京藝術大学が展開するソーシャルデザイン・プロジェクト「とびらプロジェクト」の開扉（かいび任期満了）メンバー有志が結成したアートコミュニケーション・ユニットです。

本件担当メンバー／上田紗智子・大川よしえ・高山伸夫・中尾友莉恵

目

次

第一章 とにかくじっとしていない子どもだった 14

チラシの裏にぐるぐるなにか描いていた

第二章 世界の欠片を触っている感覚 46

将来の夢は「生き物博士」

「五の二」カード

読書、レゴ、折り紙

第三章 コンプレックスを感じ始めた中学時代……………80

意地で続けた“陸上部より走る”サッカー部

三年間、同じクラスだったあの子

第四章 やりたいことしかできない……………102

「空間」なんて一ミリも考えたことがなかった

もともと美術とかデザインに興味はなかった

一人の人間が生きるための命綱として

ムサタマに行かず二浪して藝大へ

思い込みとのギャップに驚いた藝大生活

自分の身体から絵がどう生まれてくるのか

第六章 人はどう生きるのか

186

絵画と音楽と、紙芝居

自分にとっての絵画とは何か

見えないものをみんなが意識しだした

大切な人をちゃんと大切にできる人に

あとがき

234

生きている痕跡の一つとして

生きている痕跡の一つとして

第一章

とにかくじっとしていない子どもだった

チラシの裏にぐるぐるなにか描いていた

今日は改めていろいろお聞かせください。よろしくお願いいたします。

ご自身で振り返ってみて一番記憶に残る、今の自分の「核」になったなと思える時期はありますか。

あります。中学から高校時代くらいの一六歳前後の頃です。

そうですね。ではその辺りは後ほどじっくり伺うとして、

まずはお生まれからお訊きします。

一九九三年十二月一日日生まれ。実家は千葉市緑区の土気^{とけ}という、まあ、ニュータウン的な感じのところですかね。最近、住宅がぼこぼこ建ってきて、地方に住みたいなあみたい人たちが引っ越してくる、割と静かな感じの、ちょっと自然もあるみたいな感じの場所で育ちました。

じゃあ、小久江さん自身もまちと一緒に育っていった感じですかね。

そうですね……。

少し緑が残っているような場所なんですね。

まあ、ちょっと残ってるような感じではありましたね。大きい自然公園も近所にあつたり。そうですね、僕らくらいの子をもつ親世代がごそつと引っ越して、そこに住んでたっていう感じだったんで、今、ちょっとガラッとね、まちになつてきてるところもあるんですけど。

その辺りでは、なにか特徴的なことつてありますか。

土地の開発工事の際に、けっこう土器がたくさん出て。昔、この辺りには貝塚もあつたらしくて。

そういう資料が地域の公民館的なプラザの一階エリアにあつて、なんかそれは割と見に行った覚えがあります。